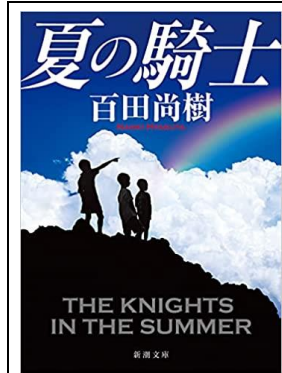


その話題、実際はどうか？！

「そんなこと、インターネットで調べればすぐにわかる！」今の時代、そう考えてしまいかちです。確かに、手早く情報を入手することは可能です。でも本当に、それでいいのでしょうか？内容によっては、ネット情報だけでは問題があるという認識は持っておいた方がいいように思います。

ネット情報は、データや根拠があいまいで不確かな情報が多かったり、どこに誰が書いたものなのか明らかにされず、内容についての責任の所在が不明確なものが多かったりする傾向にあります。誰のチェックも受けずに、ある個人の思いや考えが、十分に吟味されないまま公開されているといっても過言ではありません。でも、本を出版するとなると、そうはいきません。著者のプロフィールはもちろんのこと、編集者、協力者、出版社などによる、様々なチェックを併い、ハードルを超えることが要求されます。

とはいえ、ある1冊の本に書かれていることを鵜呑みにすることにも問題があります。根拠が不十分で吟味されていない意見が述べられていることもあるものです。だからこそ、同じテーマで書かれた本を読み比べることをオススメします。



人生で最も大切なもの。それは、勇気だ。僕が今もどうにか人生の荒波を渡っていけるのは、31年前の出来事のおかげかもしれない——。謎をめぐる冒険、友情、そして小さな恋。新たな感動を呼び起こす百田版「スタンド・バイ・ミー」



無職の娘とダメな父。ふたりに奇跡が舞い降りた！39歳独身の歩は突然会社を辞めるが、折しも趣味は映画とギャンブルという父が倒れ、しかも多額の借金が発覚した。映画の神様が壊れかけた家族を救う、奇跡の物語。



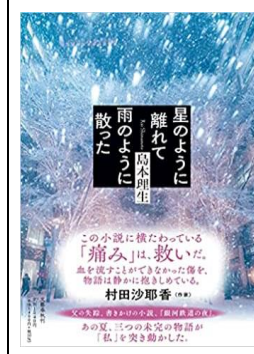
毎日を過ごすのが精一杯で未来に希望を持っていない人も多だろう。それでも自分からぶつからないと、四方を囲む城壁が、ガラスでできているかどうかかわからない。だから動こう。読んだ人はその勇気を手に入れる。(文芸評論家 細谷正充)



学生時代も、就職後も、会社を辞めてからも、同じ部屋での独り暮らし。やりたいことも見つからぬまま、気づけば二十七歳。未来に何の期待も持てずいた青年が、明日への一歩を踏み出すまでを描いた胸に迫る青春小説。



中学1年生の由加は、家では優しい家族に、学校では仲の良い友人たちに囲まれ、毎日を楽しく過ごしていたが、世界は「楽しい」ばかりじゃない。世界に満ちているものが「」なら、私たちはどうしたらいいの——？リアルで胸に迫る、青春小説。



行方不明の父、未完の『銀河鉄道の夜』、書きかけの小説。三つの未完の物語の中に私は何を見いだすのか？人生の岐路に立つ女子大学院生を通して描く、魂の彷徨の物語。「銀河の闇のむこうに消えたものを見つけた」(著者)



環境社会学とはどのような学問なのか。この学問はいったいどんな道筋を私たちに示してくれるのか。第一人者がみずからの研究史を振り返りつつ、その魅力と可能性を説き明かす。環境問題に関心をもつすべての人のための導きの書。



先の見えない状況に恐れをなして意思決定を先延ばしにすると、人やチームの納得が得られず何も実現できない。先の見えない混迷の時代を生き抜く「橋下流・意思決定術」を解説。日々、正解のわからない問題に挑み悩む人に必読の1冊！



日本の漫画は世界でも希有な文化である。中でも少女マンガは、男性視点のものとは異なる新たな物語を生み出してきた。デビュー50周年を迎え、今なお現役であり続ける著者が語った、原点と未来を繋ぐ画期的な少女マンガ論。



SNSの悩みからコロナで起きた変化まで時代を乗り切るために……クスッと笑って24話なんとかなるさ！



スポーツの世界で新記録が出る時、選手は「ゾーン」に入ったと表現される。しかし科学的にそのメカニズムは解明されていない。心理学者とトップアスリートの対話から、顕在意識と潜在的な心と身体の関係を探る。



社会人2年目、12年目、20年目。働くって、なんなんだろう？同じ職場を舞台にすれ違う20代、30代、40代の3人のマリコたち。でも大丈夫、きつとうまくいくよ。読めばじわりと勇気が湧いてくる。

 	 	 	 
<p>コミュニケーション力はみなゼロから始まるそこから、交流する人数・場数が増えていく毎に経験値が上がっていく。自分を表現するために、大好きな人とわかり合うために。人生が変わるアウトプット術を本書ですべて紹介。</p>	<p>砂糖や小麦粉など身近な食べものから「資本主義」を解き明かす。産業革命、世界恐慌、戦争、そしてグローバルゼーションと「金融化」まで、食べものを「商品」に変えた経済の歴史をやさしくわかりやすく紹介。</p>	<p>勉強法の見つけ方/計画の立て方/テスト対策/習慣化/集中力の高め方/やる気と自信の高め方。ニューノーマル時代に必要な、自分の頭で考えて未来を切り開く力や、超アップする成績が自宅学習から得られます。</p>	<p>帰国直後の日本の姿、亡き戦友の家を訪ねた時のこと、思いがけない再会、戦場での体験。伝えたかった真実、語るべきでない現実、今も鮮明に残る口にしたくない記憶。今と「戦争」の時代を結ぶ真実の記録、完結。</p>

第2回校内ビブリオバトル開催

9月23日(金)に実施しましたビブリオバトルの結果、『バッタを倒しにアフリカへ』前野ウルド浩太郎著(発表者 2年7組菅くん)がチャンプ本となりました。参加者全員が「みんなレベルが高かった」「いい刺激をもらった」「みんな作品への愛が感じられた」と肯定的でした。チャンプ本発表のあとの菅くんのコメントでは、「選んでくれてめっちゃ嬉しかったです。でも、この機会にみんなにこの本を読んでもらえるかも知れないと思うと、そのことがもっと嬉しい」と喜びを語ってくれました。菅くんは、兵庫県ビブリオバトル高校生大会(主催 兵庫県立図書館 兵庫県教育委員会)に出場します。

- ①精霊の守り人/上橋菜穂子(2年7組 石部 薫くん)
- ②バッタを倒しにアフリカへ/前野ウルド浩太郎(2年7組 菅 桐吾くん)
- ③降霊会の夜/浅田次郎(1年4組石橋陽汰くん)
- ④文豪たちのラブレター/別冊宝島編集部(2年5組 西村結花さん)
- ⑤時給三〇〇円の死神/藤まる(1年3組 福本陽菜さん)



○上記で紹介している本以外にも、新しい本が入っています。ぜひ読んでみてください。

図書名	作者名	出版社
ジェンダーで見るヒットドラマ 韓国、アメリカ、欧州、日本	治部 れんげ	光文社新書
ケアとは何か-看護・福祉で大事なこと	村上靖彦	中公新書
源氏物語を読む	高木和子	岩波新書
相手の身になる練習	鎌田實	小学館
自分をたいせつにする本	服部 みれい	ちくまプリマー新書
賢い子はスマホで何をしているのか	石戸 奈々子	日経プレミアシリーズ新書

校内読書感想文コンクール審査結果

1年生生徒を対象に実施したところ、提出作品数は270点でした。1次審査、2次審査の結果、以下の3点を校内優秀作品とし、第66回青少年読書感想文コンクール播磨東地区審査会に出展しました。

- 1年3組 南 陽香 題名 「家族の絆」
書名 『いのちは贈り物〜ホロコーストを生きのびて〜 フランシーヌ・クリストフ、河野万里子著』
- 1年5組 高田 雄貴 題名 「遠いようで身近にある『死』」
書名 『もしも1年後、この世にいないとしたら』清水研著
- 1年6組 新免 友彩 題名 「自分を変える」
書名 『嫌われる勇気』/岩見一郎、古賀史健著

【観戦者の感想より】

☆どの方も質問に対する応答とか対応の仕方が上手でとても驚きました。私は普段あまり本を読まないの、今回面白そうな本を沢山知れたので良かったです。本への愛が伝わってきました。
♡自分が読んだ時の心情を的確にわかりやすく説明してくれていたの、どの本にも興味を持ってしまった。5人のバトル全員が全力を出し切っていて、聞きごたえのある発表だった。
♡本に対するバトルの熱意が伝わってきた。きっと緊張はしているのだと思うけど、バトルの本への想いでその緊張を吹き飛ばすぐらいの良い発表で、見ごたえがあった。
★6限もビブリオバトルがあったんですけど、2年生も参加されていて、レベルが高いなと思いました。緊張している人もいましたが、作品への愛は伝わってきてとても良かったです。
□すごくワクワクしながら聞いていました。自分が読みたいと思う本はだいたい作者やジャンルが決まってる、他の本と出会う機会がないので、新しい本との出会いの場として、ビブリオバトルは本当によいものだと思います。
※第3回ビブリオバトルは、1月21日に実施します。あなたも、ぜひ、バトルーとして、観戦者として参加してみてください。